



関西支部 1/17「第123回醗酵学懇話会」報告

2025年1月17日（金）に「第123回醗酵学懇話会」が関西支部主催、京都グリーンケミカル・ネットワーク様の後援で、京都市伏見区にある京都市成長産業創造センター（ACT京都）において開催されました。加えて、今回は酒どころ伏見の特徴を活かして近隣の3社の酒造会社様に協力をいただき工場見学も企画しました。講演会には55名、見学会には3社合わせて53名の方々に参加いただきました。

講演会では、支部長東雅之先生による挨拶の後、まず、「植物を利用した高付加価値組換えタンパク質の生産」と題して加藤晃先生（奈良先端科学技術大学院大学）にご講演いただきました。植物における高付加価値タンパク質の大量生産にむけ、転写にかかわるプロモーターやmRNAの安定性や翻訳効率にかかわる配列の探索と活用例に加え、新しい配列の設計システムに至るまで、幅広く紹介いただきました。

次に、河野卓成先生（長瀬産業株式会社）に「放線菌 *Streptomyces* を用いた酵素製品の開発」と題してご講演いただきました。宿主改良、バクターやプロモーターの開発など、放線菌に関する知識・技術の蓄積、さらに、それらを利用した放線菌のユニークな酵素の製品化例を紹介いただきました。また、パートナーを募集している案件も紹介され、積極的にオープンイノベーションを進めていることを実感しました。

最後に、吉田大樹先生（xFOREST Therapeutics）から、「RNA 標的の低分子創薬の未来：xFORESTの挑戦と展望」と題してご講演いただきました。RNAを創薬の標的にすることで、これまで治療薬の無かった病気を治療する革新的な新薬の可能性および実際の方法論に関して紹介いただきました。サイエンスの内容はもちろんですが、社内では英語で議論し、「英語を使ってビジネスをしたい方はぜひ」と言っておられたのが印象的でした。

講演会終了後は、3グループに分かれて、それぞれキンシ正宗株式会社、玉乃光酒造株式会社、松山酒造株式会社の酒蔵を見学させていただきました。仕込み直前の時期であったにもかかわらず、酒つくりのステップを詳しく説明いただき、ユネスコの無形文化遺産に登録された、日本の「伝統的醸造」を肌で感じる事ができる見学会でした。

懇親会にも多くの方に参加いただき、東支部長のご発声のもと、見学させていただいた3歳の日本酒で乾杯しました。さまざまな所属の方が交流する良い機会になったと感じております。

今後もさまざまな企画を通して産学官の交流・連携を後押ししたいと思います。

（関西支部企画幹事 赤塚浩之）



加藤先生



河野先生



吉田先生



キンシ正宗株式会社



玉乃光酒造株式会社



松山酒造株式会社